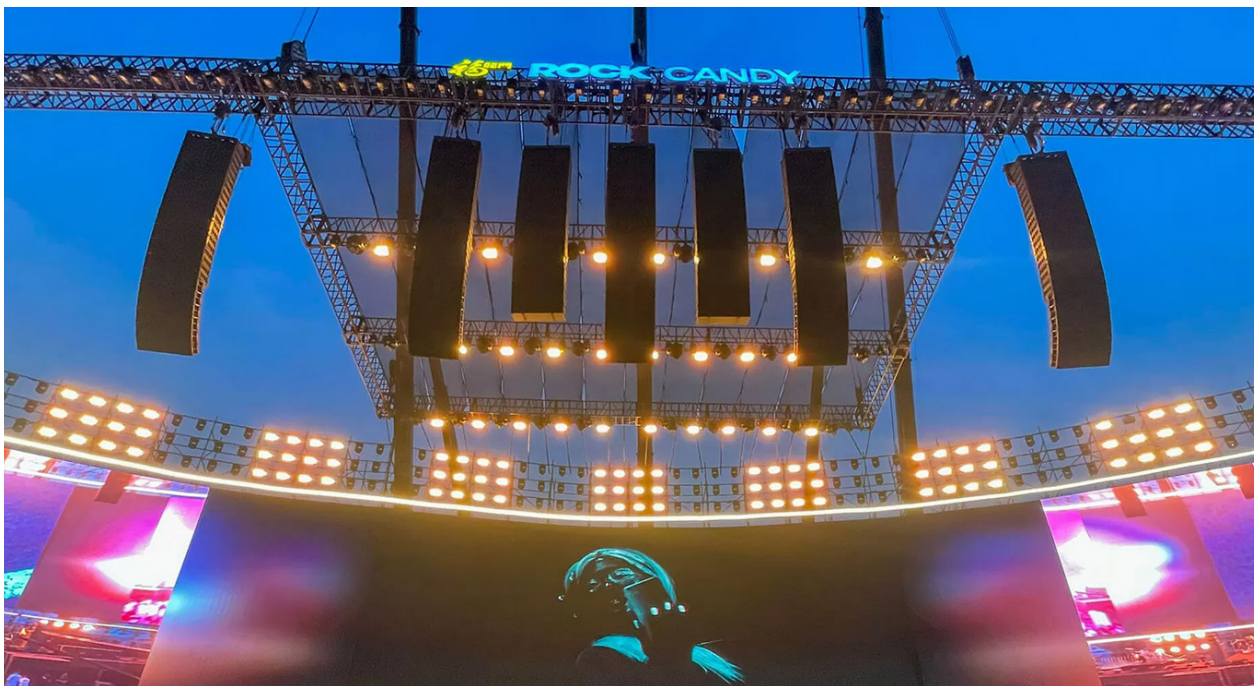




ロックンロールにおけるプロフェッショナルサウンドシステムの登場



増幅されたサウンドは19世紀後半から存在していましたが、今日私たちが現代のプロフェッショナルサウンドシステムとして認識しているものの開発は、20世紀半ばになって初めて具体化されました。

ビートルズのようなバンドがシーンに登場する前、ほとんどのコンサートは、小さな会場で開催されていました。音が自然に収まり、誰もがまともなリスニング体験をすることができました。しかし、ロックンロールの人气が爆発的に高まるにつれ、バンドはスタジアムや広大な屋外スペースで演奏するようになりました。1950年代から60年代にかけて急成長を遂げたロックンロールシーンでは、より大規模な観客や屋外会場に対応するために、より大音量で強力なサウンドシステムが求められました。彼らは拡声システムを転用した、業界用語で言うところのPAシステムに頼っていました。しかし、これらのPAシステムは、高エネルギーの音楽には不十分であることが明らかでした。

ビートルズ自身も、この技術的な限界のせいでツアーをやめました。彼らは自分たちの演奏を聞くことができず、観客も同様に聞くことができませんでした。

プロフェッショナルサウンドシステムのパイオニア

プロのサウンドシステムの初期のパイオニアやイノベーターは、実際には「ロックンロール万歳」の時代よりもはるかに早く登場しました。20世紀初頭、エンドウィンブリダムとピータージェンセンはカリフォルニアの小さな研究室で、ただ研究をしていたわけではありません。彼らは音の革命を起こしていました。好奇心に駆られて、彼らはマイク、アンプ、スピーカーを実験しました。彼らは人間の声はどこまで届くかという限界に挑戦しました。彼らの実験は地元住民を当惑させ、幽霊のように家中に響き渡る実体のない声を聞くことになりました。

これにより、彼らはMagnavox（ラテン語で「大きな声」を意味する）を作成することになりました。そして1915年、サンフランシスコでのクリスマスキャロルコンサートで画期的なPAスピーカーシステムを発表しました。10万人が市のシビックセンターに集まり、まるで壁から発せられるかのような透き通ったキャロルに畏敬の念を抱きました。これは、増幅されたパブリックパフォーマンスの夜明けを示しました。これらは、マルコーニ、タンノイ、アルテック、ウェスタンエレクト

リックなどの企業が、ラジオ、電気通信、映画用のPAシステムをさらに開発するための道を切り開きました。

しかし、旅はそこで終わりませんでした。数十年後、ワトキンスエレクトリックミュージックのチャーリーワトキンスがバトンを引き継ぎ、周波数レスポンスの向上に重点を置いた革新的なアンプ設計でライブサウンドに革命をもたらしました。音楽が明瞭かつ力強く観客に届くようにし、今日私たちが楽しんでいる没入感のあるコンサート体験の基礎を築きました。その後、「フェスティバルサウンドの父」と呼ばれることが多いビルハンリーは、特注のPAシステムを試作しましたが、既存の技術の限界に満足せず、独自のスピーカーボックスを設計しました。最も有名なのは、ボブディランがエレキギターに切り替え、物議を醸した1965年のニューポートフォークフェスティバルです。



1970年代、グレイトフルデッドの「ウォールオブサウンド」が音響革命の先駆者として登場しました。バンドのサウンドエンジニア、オズブリースタンリーの発明によるこの大規模なプロ仕様のサウンドシステムは、単に大音量のスピーカーを積み上げただけのものではありませんでした。大規模なライブ音楽パフォーマンスの課題に対処するために設計され、入念に作られたシステムでした。スタンリーのビジョンは明確でした。会場の大きさや形状に関係なく、観客の隅々まで届く、歪みのない高忠実度のサウンドを作りたかったのです。



プロフェッショナル サウンドシステムの躍進

ライブ音楽に革命的な影響を与えたにもかかわらず、ウォール オブ サウンドにはいくつかの重大な欠点がありました。その巨大さと複雑さは、ロジスティクス上の悪夢でした。輸送と設営には複数のトラックと大勢のスタッフが必要でした。この巨大なシステムの構築と維持にかかるコストも法外なものでした。さらに、ウォール オブ サウンドの強大なパワーにより、音が周囲に漏れるため、多くの会場には適していませんでした。最後に、このシステムは、音が最適になる「スイート スポット」が限られおり、会場全体で一貫した音質を実現することが困難でした。

ロックンロールのうねりには、熱狂的なミュージシャンと「ウォール オブ サウンド」以上のものが必要でした。ロックシーンの気概とパワーを真に解き放つには、技術革新が必要だったのです。初期のコンサートは、不十分なサウンド システムに悩まされおり、増え続ける観客にこの新しい音楽の生のエネルギーを伝えるのに苦労していました。これがイノベーションの波を引き起こしました。すでに述べたビル ハンリーのようなエンジニアは、カスタム スピーカー キャビネットを製作し、増幅の限界を突破しました。

そして、科学と音楽の両方に情熱を傾ける物理学者のクリスチャン・ヘイル博士が、ピンク・フロイドのコンサートを観に行ったことをきっかけに、音の革命を引き起こしました。ヘイル博士は、画期的な発明であるラインアレイスピーカーシステムで、1990年代のライブサウンドの状況を変え、音の伝達方法に革命をもたらしました。音波がレーザービームのように動作し、正確に焦点を合わせて方向付けられ、会場の隅々まで届くことを想像してみてください。ヘイル博士の完璧なオーディオへのあくなき探求から生まれたこの独創的な技術により、コンサートのサウンドは、非常にクリアな明瞭さでより遠くまで届くことができるようになりました。これにより、最前列から最後尾まで、すべてのファンがアーティストの意図したとおりに音楽を体験することができるようになったのです。L-Acoustics は、ヘイル博士の偉業を引き継ぎ、世界中の観客に忘れられないサウンド体験を提供するために、ラインアレイ技術を絶えず革新し、改良しています。

より高い忠実度への要求

観客の目が肥えるにつれて、より忠実度の高いサウンドに対する要求が高まりました。その結果、スピーカーの設計やイコライゼーション技術が進歩し、演奏者専用のモニター システムも開発されました。



2012年11月8日、フロリダ州ハリウッド、セミノール・ハードロック・ホテル&カジノで開催されたハードロック・ライブ! に出演したウィーザーのリヴァース・クオモ。(写真: Larry Marano/Getty Images)

インパクト

プロフェッショナル サウンド システムの開発は、音楽業界とライブ エンターテインメントに大きな影響を与えてきました。これにより、アーティストはより多くの聴衆に音楽を届けられるようになり、ファンのコンサート体験が向上し、音楽フェスティバルや大規模イベントの成長が促進されました。今日、プロフェッショナル サウンド システムは進化を続け、最先端のテクノロジーを取り入れて、臨場感あふれる高品質のオーディオ体験を提供しています。

Lシリーズ: ロックンロールのライブサウンドに革命を起こす

今日のロックンロールの状況において、Lシリーズのライン ソース アレイはライブ サウンドの可能性を再定義しています。精度と汎用性を考慮して設計されたLシリーズは、比類のないパワーと明瞭性を提供し、ギターのリフ、ドラムのビート、ボーカルのニュアンスが、意図したとおりに観客に届きます。数十年にわたる革新的なサウンド エンジニアリングの集大成であり、現代のライブ パフォーマンスの課題に取り組むコンパクトで拡張可能なソリューションを提供します。ごちんまりとした会場でも、広大なスタジアムでも、真に魅力的なライブ サウンド体験を生み出し、ロックンロールのプロフェッショナル サウンド システムの新たな基準を確立します。



L-Acoustics のKシリーズとAシリーズは、高音質、優れた明瞭度、そして均一なカバレッジを兼ね備えています。